

2024年3月20日  
(2023(令和5)年度修了生)

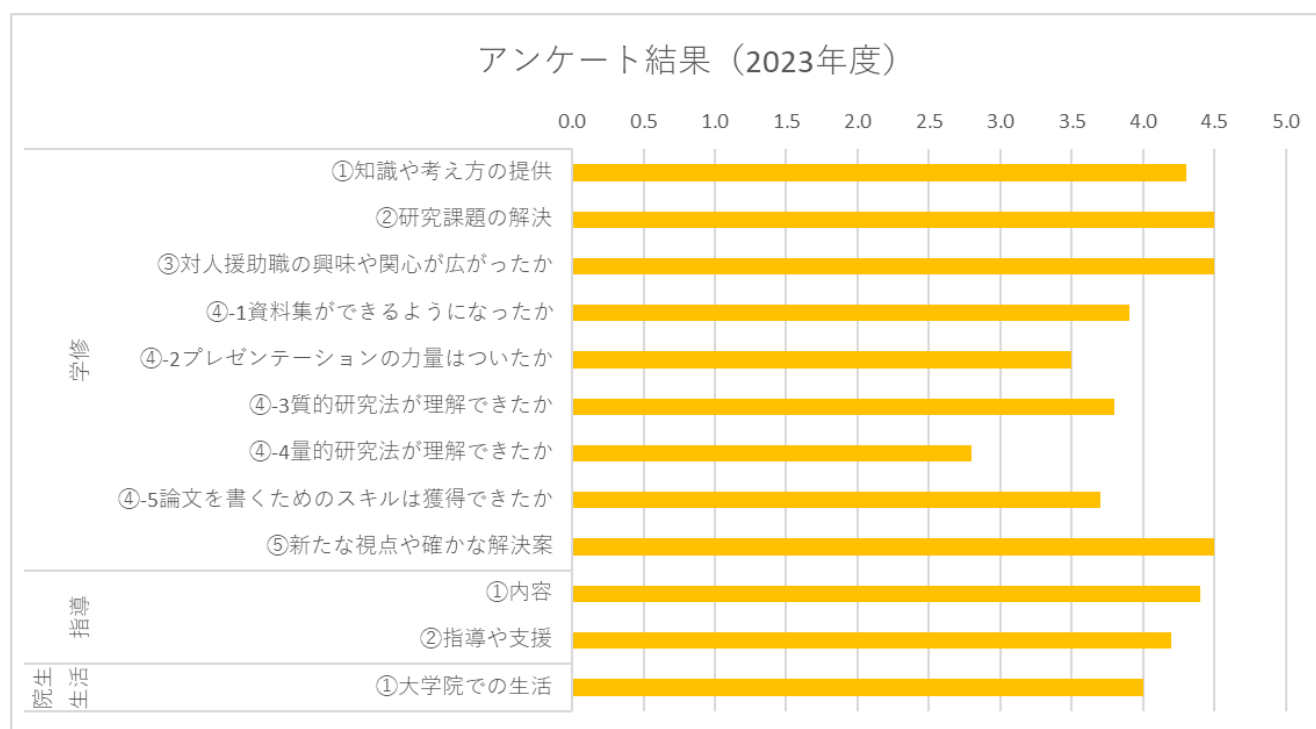
武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科 修了アンケート結果(修士10名、博士1名)\*

項目	設問	評価※					2023年度 平均	2022年度 平均
		1	2	3	4	5		
学修を振り返って	(1) 大学院での学修は、全体としてあなたの期待に応えるものでしたか。	0	0	1	6	4	4.3	4.3
	(2) 大学院での学修は、あなたの専門分野の研究課題に活用できるものでしたか。	0	0	2	1	8	4.5	4.6
	(3) 大学院での学修を通して、“対人援助職”に対する理解が一層深まりましたか。	0	0	2	1	8	4.5	4.7
	(4)_①自分で必要な資料やデータの収集ができるようになった。	0	1	2	5	3	3.9	4
	(4)_②プレゼンテーションの力量がついた。	0	2	3	5	1	3.5	3.6
	(4)_③質的研究の調査方法や分析方法について、一定程度の理解ができた。	0	1	4	2	4	3.8	3.8
	(4)_④量的研究の調査方法や分析方法について、一定程度の理解ができた。	1	4	3	2	1	2.8	3.2
	(4)_⑤論文を執筆するための知識やスキルが獲得できた。	0	1	4	3	3	3.7	3.9
	(5) 大学院での学修を通して、あなたの職場や関連領域で生じている課題や問題に対する新たな視点や取り組むヒントを得ることができましたか。	0	0	1	3	7	4.5	4.4
教員の授業や研究指導について	(1) 大学院で提供する授業は、充実した内容でしたか。	0	0	1	5	5	4.4	4.7
	(2) あなたの指導教員の指導やゼミの院生の支援は、充実していましたか。	0	0	2	5	4	4.2	4.7
院生生活について	(1) 大学院での生活（授業や研究環境、交友関係を含）は、充実していましたか。	0	0	3	5	3	4	3.7

※修士修了生10名。全員から回収。(回収率100%)、博士修了生1名。全員から回収。(回収率100%)

※1-5の5段階評価で、5が最も高い評価

★アンケート質問項目を変更したため、2022年度と2023年度集計結果を提示する。



## 1. あなたの学修を振り返って

(1) 大学院での学修（教員や学友、調査対象者からの学び、調査実施や論文作成等を含…以下同様）は、あなたに期待に応えるものでしたか（期待に応えたと思う内容（知識やものの捉え方等））

- ・特論などの講義、指導教員のアドバイス
- ・人は先天的や、後天的な様々な環境に影響され、ものの捉え方が変化することを学びました。また、成長発達による捉え方の変化も学び、それぞれに対して関わりを変化させる必要性を学びました。人は1つのことが原因として行動を変化させているのではないことを学びました。
- ・知らないフィールドの教授や院生の方たちとの語りは大変学びが多く過ごせたこと。
- ・自分の考えの根拠を先人の論文などから示すという考え方を学んだ。
- ・教員の方の豊富な知識と経験のお陰で、学ぶ楽しさを知ることができました。
- ・教育・心理・福祉という3つの視点が1研究科に含まれているのが良かったです。
- ・押谷先生の授業では道德教育の歴史や人権教育の基礎等を学ぶことができた。森脇先生の授業からは様々な教育方法を学ぶことができた。
- ・自分が目ざす研究において理論と実践の融合が一定実現できたこと

(2) 大学院での学修は、あなたの専門分野の研究課題や実践の場における問題の解決に活用できるものでしたか（特に活用できたと思う点）

- ・スクールソーシャルワークで必要な知識や考え方をしっかり学べたこと
- ・患者教育という分野で研究を行いました。専門的知識は変化しても患者教育の視点のベースは変化しないので看護師として学びがありました。
- ・統計学では自身が充分理解できていませんが、少し深まったと考えています。  
教育社会学では、これまで触れることの無かった領域で、とても新鮮で俯瞰した考えが学べました。"
- ・自身の講演の資料を丁寧に根拠を示しながら記載し、さらに自身の知見をいれることでより、多くの人に活用してもらえるとということとその方法の手がかりがわかったこと。
- ・臨床を研究という視点で捉えることできる機会になりました。
- ・専門職教育の技法等を学ぶことができ、今後活用できる。
- ・授業実践と論文執筆において統計学を活用することができたこと

(3) 大学院での学修を通して、“対人援助職”に対する理解が一層深まりましたか（とくに興味や関心が広まった点）

- ・教育分野について
- ・他職種と学びを深めることで、知っておかないといけない分野なのに知らなかったということが多くあり、学びがありました。
- ・傾聴することの奥深さや人の生きざま、背景。
- ・他専門職種のものもの捉え方や考え方を聞き、ディスカッションできたことが良かったです。
- ・専門職を対象としたOJTやOff-JT
- ・対人援助職である教員と子ども理解という理念と実践の融合を図る視点をもつことができた

(4) 大学院での学修についてお聞きします（本研究科での学修を通じて、特に身についたと感じる点）

- ・自分の興味関心を言語化できる力量
- ・教育の立場で行動するときに、一方的に伝えるのではなく、考えてもらうこと、待つこと、誤りを楽しむこと、知りたいと思って貰うことを考えるようになりました。

- ・研究課題の明確化、語彙力、思考の可視化
- ・看護と福祉の対人援助の考え方の方向が異なる点があったので、福祉の考えを取り入れる。また、教育学でも、人に伝える方法を知り、心理学でもさらに深く学びたいと思えた。
- ・文献を探し、読むこと。論文の書き方
- ・大学院での学修を通して、より研究の奥深さを知り、これからももっと学修しなければいけないと感じました。
- ・社会人大学院生ということで、時間のやりくりの力は少しついた気がします。"
- ・論理的な思考力
- ・主として子どもの見方、授業観そして教育観について一定の考えを持つことができた。

**(5) 大学院での学修を通して、あなたの職場や関連領域で生じている課題や問題に対する新たな視点や取り組みのヒントを得ることができましたか（今後、研究科に取り入れてもらいたい授業や取り組み）**

- ・論文のまとめ方 フォローアップ、統計結果の読み方 フォローアップ
- ・量的研究の方法とその実践。性教育に関する内容。
- ・対面授業
- ・より研究（量的・質的）について学び、深めることができると嬉しいです。また、論文の読み方など。"
- ・修士課程卒業後の研究の発展性について
- ・臨床教育における統計学のより実践的な活用

**2. 教員の授業や研究指導について**

**(1) 大学院で提供する授業は、充実した内容でしたか（特に良かった点や改善すべき点）**

- ・先生方の人間性が素晴らしかった
- ・子育てする母親としてもメリットが多かったです。
- ・欲張って、質も量も学習させていただいたこと。
- ・リモートでも授業を受けることができ、仕事で出張などの時によかった。
- ・常にオンライン授業を受けられる点が良かった
- ・コロナ禍の中、リモート中心の授業であったが、指導教員のていねいな指導に支えられた。

**(2) あなたの指導教員の指導やゼミの院生の支援は充実していましたか（特に良かった点や改善すべき点）**

- ・自分の問いに向き合えるような指導があった
- ・対面で1対1で指導をして頂けたことが、とてもありがたかったです。沢山時間を費やして頂き感謝しております。
- ・SPSSを丁寧に教えていただいた。
- ・先生方が丁寧に教えてくださりありがとうございました。
- ・丁寧に指導行きたかったです
- ・ゼミ時間以外にも丁寧に論文を読んでいただき、非常に助かりました。
- ・ゼミ生間での学び合いが深まるように導いてもらったことや、他の研究者との繋がりを持たせて頂いた点が良かった。
- ・指導教員のていねいな指導はもとより所属専攻全体で支えていただいたこと

### 3. 大学院での学生生活について

#### (1) 大学院での生活（授業や研究環境、交友関係を含）は、充実していましたか（特に良かった点や改善すべき点）

- ・ゼミや学年を超えて、繋がりがもてたこと
- ・同級生と関わる時間がもっと沢山あればもっと楽しかったかもしれません。
- ・同じゼミのメンバーが行う研究プロセスを体験できたこと。
- ・院生間の繋がりが深まり、新しい友人が増えたことに大きな価値があった。
- ・学生研究室のパソコンは2台あるが、1台は画面も小さく立ち上がりも遅いためか、1台を学生で譲り合って利用していた。
- ・日曜日は6階のパソコンの教室に入れなため、学校に行きたくても、5階のパソコンを長時間使用している学生がいると、行きにくい状況となった。日曜日も6階に入れるようにするか、5階のパソコンを増やしてほしい。
- ・日曜日、祝日に6階の部屋が使えないこと。5階だけだと、パソコンが2台しかない。
- ・提出に必要な書類等で有意義な情報をいただいたこと

#### (2) 大学院生活で、思い出に残っていることをご自由にお書きください

- ・満足しています。ありがとうございました。
- ・M1の毎週土曜日の時間がいつも楽しみでした。
- ・実地調査で民博にいったこと。先生の解説が最高でした。教育社会学という分野を知れたことも知見が広がった。
- ・論文を仕上げるため、学生同士励まし合いながら、学校で論文を書いたこと。
- ・修論を書く間、同級生や先輩方から、たくさんの励ましや助言を頂いたこと
- ・論文執筆で苦しい時に指導教員に励ましてもらったことや、ゼミ生・同期に支えてもらったことが非常に良い思い出になっています。有難うございました。卒業するのが寂しいです。
- ・コロナ禍の中でも、リモートの活用により、きめ細かく指導していただいたこと